

<コトネアスターくもの巣病>



被害枝



罹病葉に形成された菌核

<コトネアスターくもの巣病>

病原菌：Rhizoctonia solani Kuhn

1. 症状

母樹では新梢の中間～先端部及び小葉に不明瞭な褐色の病斑を生じ、やがて褐色の菌糸がくもの巣状に取り巻き、枝枯れを生じる。挿し木苗に発生すると枯死至る。被害植物体に褐色の菌核を多数形成する。

2. 生態

上記、ガザニア葉腐病の2を参照。

3. 防除

- 1) 健全株から採穂する。
- 2) 育苗施設内の過湿を避ける。
- 3) 発病株は直ちに除去する。
- 4) 母樹は過繁茂を避ける。

4. 記事

本病は1992年8月、秋川市の母樹圃場で発生した。また、施設での育苗中にも発生し、被害を生じている。